

防災対策強化へ 無電柱化推進を

衆院国交委で西岡氏

10日の衆院国土交通委員会で、日本維新の会の西岡新氏（比例四国）が質問に立ち、道路から電柱を撤去し電線類を地中に埋設する「無電柱化」の推進を求めた。

東日本大震災では電柱が倒壊し避難の妨げになったケースがあり、審議中の道路法改正案では、道路管理者が防災上重要な道路での電柱設置を禁止できるとしている。

国交省によると、愛媛の無電柱化達成率

（2011年度末）は7%で全国最低。西岡氏は「地方では財政が厳しく、無電柱化より新規の道路整備を優先する傾向がある」と指摘。国交省担当者は「必要性を周知し、社会資本整備交付金などで財政支援したい」と答えた。

西岡氏は「愛媛でも道後温泉周辺は無電柱化されている。これまでも無電柱化は景観、観光の面が強く、『ぜいたく品』という感覚があったが、通学路も含め防災の観点から取り組むべきだ」と強調した。

（多田良介）

平成25年5月11日

愛媛新聞掲載